

山口 周 氏 提出資料

ビジネスにおける「真・善・美」の転換

理性 = Science

感性 = Art

真

- データ・事実
- 論理思考

- 五感・匂い・肌触り
- 直感

善

- 業界慣習
- 判例
- 法律

- 道徳
- 倫理
- 世界観・歴史観

美

- 市場調査
- 他社事例

- 感性
- 審美眼

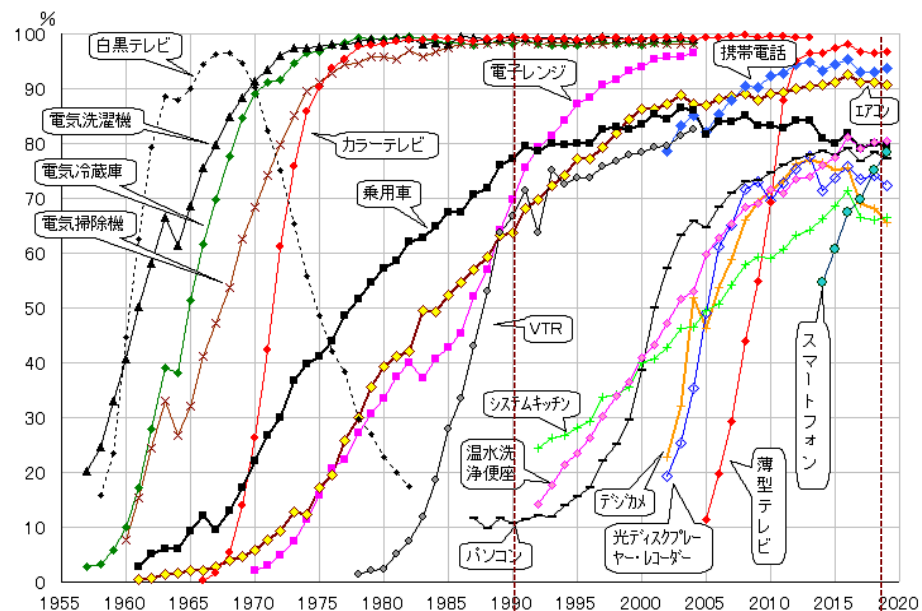
昭和は「問題リッチ社会」だった・・・令和における「問題」は？

三種の神器



- 高度経済成長期において「豊かな生活」の憧れとなった冷蔵庫、洗濯機、テレビの三つの家電

主要家電の世帯普及率



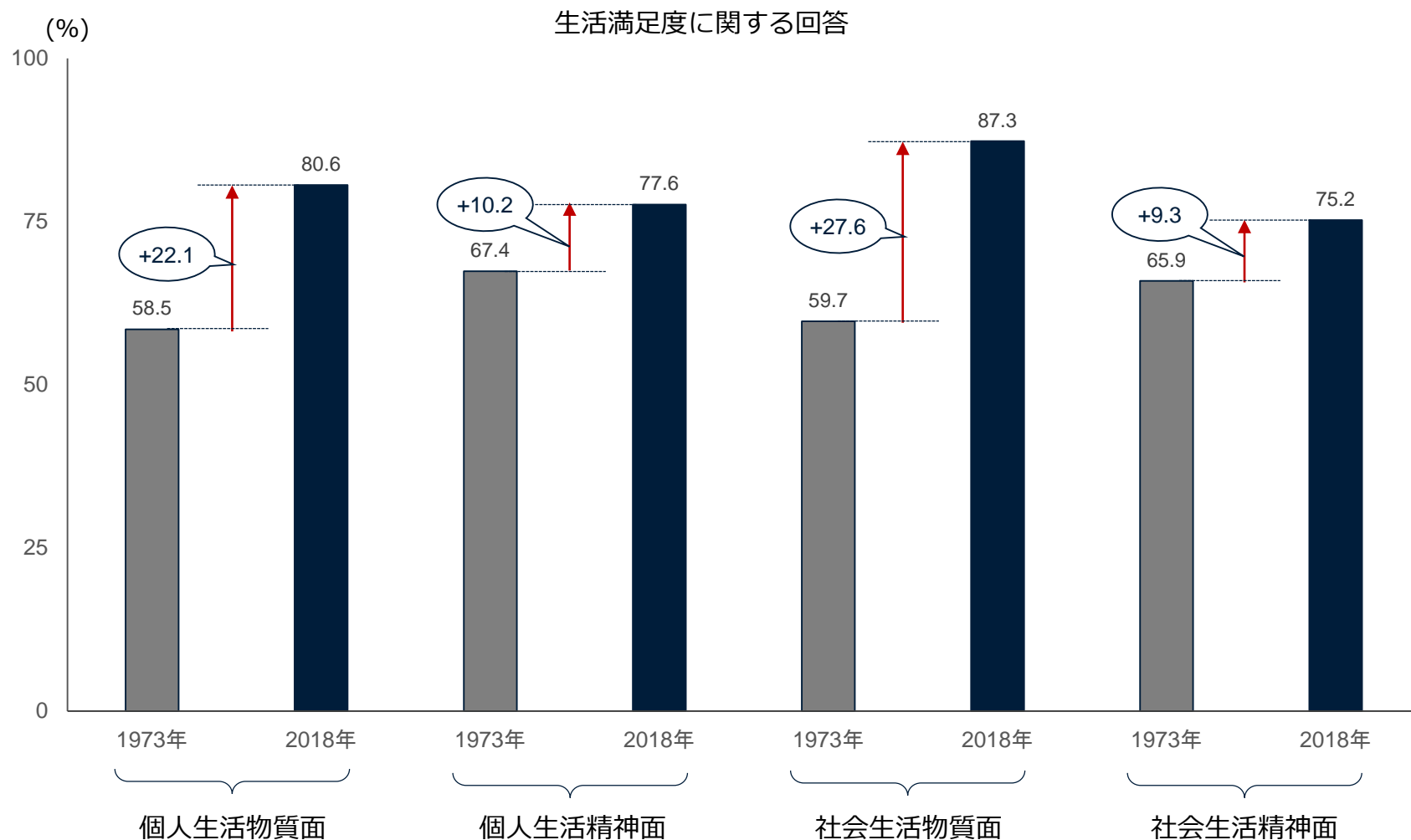
(注) 二人以上の世帯が対象。1963年までは人口5万以上の都市世帯のみ。1957年は9月調査、58～77年は2月調査、78年以降は3月調査。05年より調査品目変更。多くの品目の低下は調査票変更の影響もある。デジカムは05年よりカメラ付き携帯を含まず。薄型テレビはカラーテレビの一部。光ディスクプレーヤー・レコーダーはDVD用、ブルーレイ用を含む。カラーテレビは2014年からブラウン管テレビは対象外となり薄型テレビに一本化。

(資料) 内閣府「消費動向調査」

昭和→

平成→

生活満足度は大きく伸長・・・特に「物質的満足度」は個人・社会ともに8割を超える



現代という社会の特徴

| 過剰なモノ | | 希少なモノ |
|------------|-----|----------|
| 正解・ソリューション | >>> | 問題・アジェンダ |
| モノ | >>> | 意味 |
| 利便性 | >>> | 情緒・ロマン |
| データ | >>> | ストーリー |
| 説得 | >>> | 共感 |
| 新しさ | >>> | 懐かしさ |

過剰なモノの価値は低下し、希少なモノの価値は上昇するという原則

2007年の携帯電話新機種



どの端末がどのメーカーのものか、わかりますか？

長島・大野・常松 リーガルテックへ出資

大手の長島・大野・常松法律事務所（東京・千代田）は10月末、人工知能（AI）によって法務を効率化する「リーガルテック」を提供するベンチャー企業に出資する。

2020年1月をメドに技術を企業や他の法律事務所に販売する。大手事務所がリーガルテックへの出資・外部提供を明らかにするのは初めて。

提供する技術「モンテスキュー」を使い、企業は膨大な契約書を自動チェックできる。M&A（合併・買収）の法務デューデリジェンス、金融・不動産などで多数の取引先との賃貸借契約を効率的に管理できる。

例えば従来は弁護士が2週間かけて処理したM&Aの契約チェックを、1時間以内で処理できる。サービス価格などは未定。

日本経済新聞（2019年10月21日）

ケインズの指摘した「人間本来の衝動 = アニマル・スピリット」

投機による不安定性のほかにも、人間性の特質にもとづく不安定性、すなわち、われわれの積極的活動の大部分は、道徳的なものであれ、快楽的なものであれ、あるいは経済的なものであれ、とにかく数学的期待値のごとくに依存するよりは、むしろおのずと湧きあがる楽観に左右されるという事実起因する不安定性がある。

何日も経たなければ結果が出ないことでも積極的になそうとする、その決意のおそらく大部分は、ひとえに血気（アニマル・スピリッツ）と呼ばれる、不活動よりは活動に駆り立てる**人間本来の衝動**の結果として行われるのであって、数量化された利得に数量化された確率を掛けた加重平均の結果として行われるのではない。

ケインズ「雇用・利子・貨幣についての一般理論」

ビジネスに「衝動」を回復できるか、が21世紀の大きな課題

シュンペーターの指摘した「ディオニュソスの起業家精神」

1936年1月、シュンペーターは米国農務省で「資本主義は生き延びうるか？」と題する講演をした。

「**レーディーズ・アンド・ジェントルマン、答えはノーです**」という言葉で始まるこの講演は、やがて1942年に刊行された『資本主義・社会主義・民主主義』という書物の柱となった。

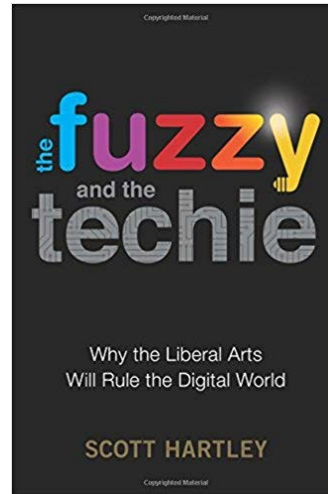
投資機会の消滅、そうした理由で資本主義が死ぬことはない。しかし資本主義は生き延びることができない。資本主義はその担い手である「企業家」が消滅することによって自壊する、とシュンペーターは言うのである。

「ディオニュソスの」企業家精神の衰退 シュンペーターの言う企業家、すなわちイノベーションの担い手としてまさに資本主義を資本主義たらしめる主人公は、誰にも備わっているわけではない特別の能力に恵まれた人間だ。「能力」と言ったが、イノベーションはけっして冷静な計算のみによって生み出されるものではない。むしろイノベーションを起こさないではいられない**一種の衝動を持った企業家**のみがそれを生み出しうるのである。

吉川洋「今こそケインズとシュンペーターに学べ」

リベラルアーツの復権がなぜ叫ばれるのか？

The Fuzzy and the Techie: Why the Liberal Arts Will Rule the Digital World
By Scott Hartley



“While a bounty of opportunity undoubtedly exists for techies as well, and they are in high demand, what’s little understood about today’s tech-driven economy is that as technology offers an ever more accessible toolbox, our differentiation—our very competitive advantage—becomes the very thing liberal arts programs teach.”

課題とテクノロジーの関係

課題 < テクノロジー



- パソコン発明以来の革命的製品と言われながらも一度も黒字化せず
- 会社は売却を繰り返されたのち、事実上消滅

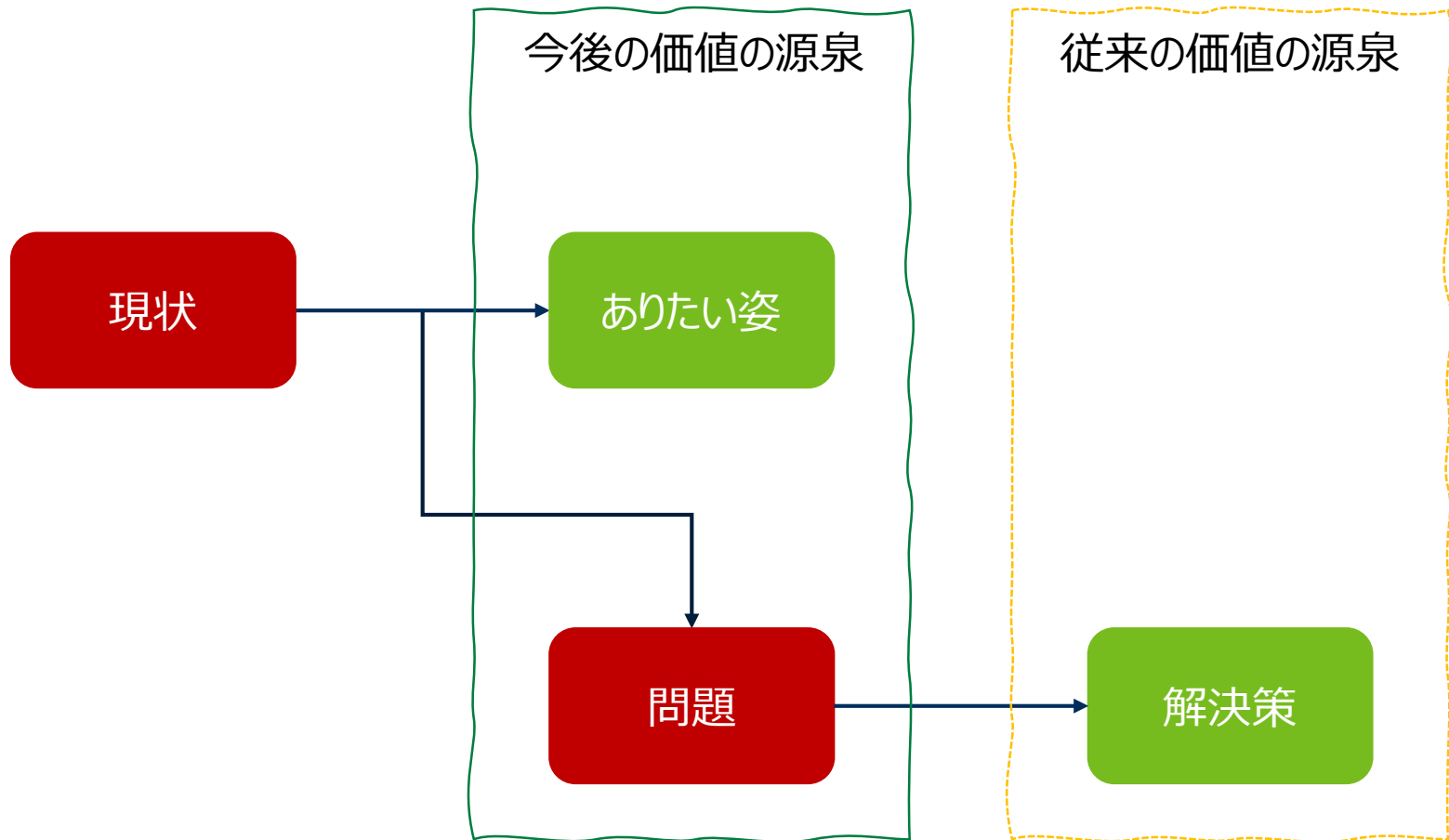
課題 > テクノロジー



- 空き部屋という未活用の社会資本の活用という課題を発見
- 用いられているテクノロジーは汎用的

社会的課題の設定なき先端テクノロジーの活用は価値を生まない

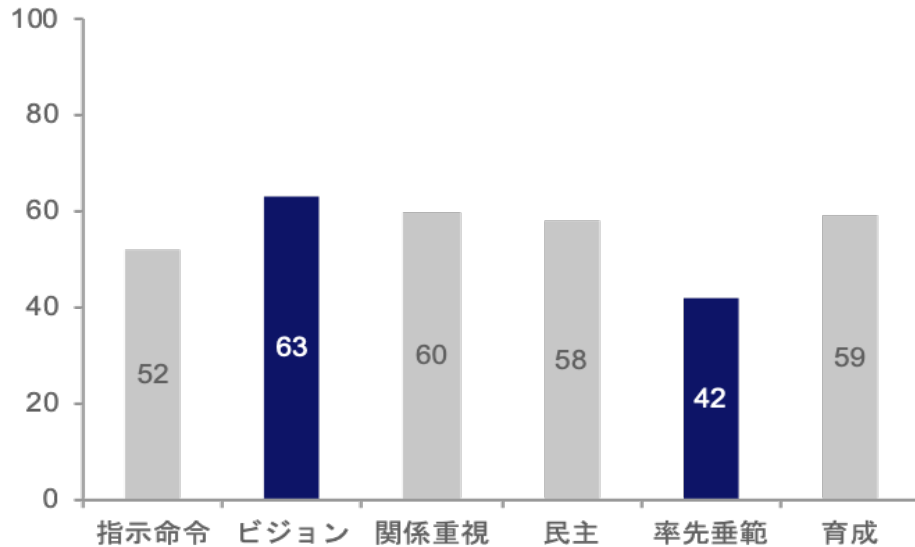
ありたい姿が描けないと問題を生み出すことができない



日本企業とフォーチュントップ企業との差異

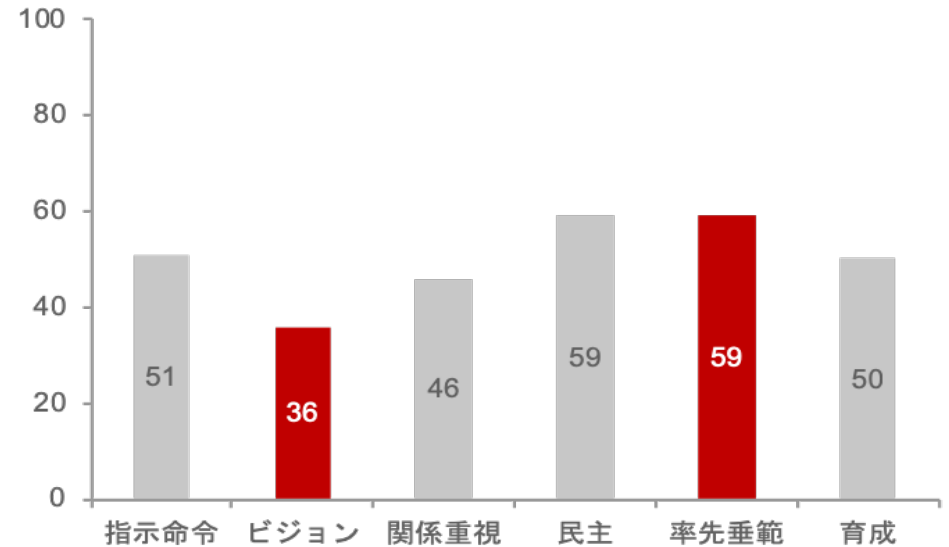
- フォーチュン500社の中で「イノベティブな会社」と認識されている企業と日本企業の平均を比較すると15パーセント以上差があるのは、「ビジョン」と「率先垂範」の項目

イノベティブな会社



- ビジョンを示して組織をリードしようとしている
- 難局にあっても自ら手を下すことはせず、コーチングによってチームの能力を高めることで乗り切ろうとしている傾向が見られる

日本企業の平均



- 組織が向かうべき方向やビジョンが示されていない
- 難局にあっては、自ら手を下すことで乗り越える傾向が強く、チームや部門の人間関係に対する気遣いも相対的に弱い

思考プロセスの変化

